



# アスンシオン通信

シーズン2

日付: 2025年11月27日 no.39

発行者: 田邊紘起

Hola a todos! Como están?

日本はとても寒くなってきたようですね。季節はすっかり冬でしょうか。12月の駅伝大会に向けて、毎日走っている姿が想像できます。寒さに負けないように頑張ってください。

パラグアイはいよいよ夏本番という感じです。熱中症にならないように水分をとりながら過ごさないといけません。同じ地球なのにこんなに違うなんて不思議ですね。

皆さん毎日過ごしている学校には教室の他に、運動したり行事をしたりする時に使う体育館がありますよね。パラグアイの学校やスポーツ施設にもだいたい体育館があります。ただ、パラグアイの体育館は、日本の体育館とは違った作りをしています。

全体の姿は、日本と同じように天井が高く、中心部に柱がないのでスポーツをするのに向いています。体育館の壁は、赤いレンガを積み上げて作っています。ボールが勢いよく当たっても、びくともしない頑丈な壁です。



広くて大きい立派な体育館=parroquia Santa Elena

日本の体育館の入口には普通ドアがありますが、パラグアイの体育館は壁が大きくぬかれていてドアがありません。ボールが転がると、あっという間に外に出ていってしまいます。



壁が大きくぬかれた入口=parroquia Santa Elena

日本の体育館では、アリーナに入る時に体育館シューズに履き替えますが、こちらでは入口付近に小さなマットが敷かれているだけです。だから、マットの上を通らずに入る人がほとんどです。もちろん靴を履き替えることもしません。床に段差はなく、緑や赤のペイントが塗ってあるところが中、塗っていない

ところが外といった感じです。風が吹けば埃や砂が入ってすぐに汚れてしまいそうですが、誰も気にしている感じはありません。

体育館の床は外と同じようなコンクリートで、直にペンキで色を塗ってあるようで、とても硬いです。



入口に置かれたマット=parroquia Santa Elena

日本の体育館の窓はとても大きく、それにカーテンが付いているものが多いですよね。そのおかげで、太陽の光の量を調整して明るくしたり暗くしたり、窓の開け閉めで空気の流れを調整して暖かくしたり涼しくしたりすることができます。

パラグアイの体育館は、窓がついていないものが多いです。少なくとも私が行ったことがある学校やスポーツ施設の体育館は全て窓がありませんでした。その代わり、中が空洞になったレンガが上方についています。この穴開きレンガのおかげで、風を通したり光を入れたりすることができます。でも、穴が開いているので、雨が降ったら中に水が入ります。虫や小鳥も自由に出入りしますが、床が汚れたらモップで拭くから問題ないそうです。





窓には穴開きレンガが使われている=parroquia Santa Elena

パラグアイはカラッとしていて雨が少ない国だから、それでいいのかもしれません。日本だったら、ジメジメして雨が多いのでカビやコケが生えそうです。このように、細かいことを気にせず、大雑把な感じが素敵なパラグアイの体育館でした！

## タイトル写真について

アスンシオンには、黄色い縦型や写真のような横型など、いろんな形の信号機があります。これらは、欧米やアジア等、外国の支援で設置されています。写真の信号機は日本の隣の韓国が支援して付けられたものだそうです。日本の信号機とデザイ

ンがよく似ています。しかし、よく見ると何か違っていますか？ そうです、赤色が左側にあります。日本の信号機の赤色は右側にありますよね。なぜ違うのか気になった人は調べてみましょう。ちなみに、青、黄、赤の三色や光る順番は日本と同じです。

### スペイン語・グラナーニー語ひとこと講座

3つの「ペロ」【Pero・pelo・perro】

Pero: でも、しかし

Pelo: かみの毛

Perro: 犬

上の3つの言葉をカタカナで書くとすべて「ペロ」になります（発音は違います）。外国の言葉を学習する時は、カタカナにして書くだけでなく、音で聞いたり、口元を見たりして違いを見つけることが大切ですね。

## 次回について

次回はこちらで最近行われたイベントについて紹介する予定です。 Chao chao ! Hasta la próxima vez!